

日本生活協同組合連合会

「ヘルシーコープ」の展開、地域での自発的な「食育」・支援の活動の広がり、途上国の栄養改善支援の募金活動

1. 「健康サポート食品の開発・改善」と「食べ方（レシピ）提案」の「ヘルシーコープ」に取り組んでいます。
2. 地域で組合員が自発的に多様な「食育」活動を企画運営しています。
3. 商品購入による募金キャンペーン等で途上国の栄養改善を支援しています。

<目標・取組>

1. 「ヘルシーコープ」の開発と改善を通じた多様化する健康課題の解決
 - ①食事バランスがとりやすい「食べ方（レシピ）」、ふだんの食事で使える、おいしく手軽な「健康サポート食品」を開発し、組合員の利便性を高めます。
 - ②「食塩低減」「野菜摂取増」に対応する商品開発に積極的に取り組みます。
2. 多様で自発的な「食育」活動を通じた行動変容

子どもから大人まで、生産者との交流や産地・工場見学、食品の安全、地域の料理教室など、多様な「学び」を通じて「食」に対する意識を高める活動が継続されています。
3. お買い物を通じて途上国の栄養改善を支援する取り組み
 - ①国連WFP協会と「co-op×レッドカップキャンペーン」を実施、対象商品購入1点につき1円が2020年度は504万円の募金が集まりミャンマーの子どもたちの給食のために届けられました。
 - ②地域生協のいくつかでは、コープマークの牛乳の売り上げの一部を、途上国の子どもたちの栄養改善の目的で募金しています。2020年度は合わせて2,866万円が集まり、募金は日本ユニセフ協会、国連WFP協会を通じて現地に届けられました。また、日本ユニセフ協会の一般募金でも、途上国の子どもたちの栄養改善のための募金が届けられています。

<達成状況（2023末時点）>

1. 「ヘルシーコープ」の開発とレシピや情報発信を通して多様化する健康課題の解決

ふだんの食事で使えるおいしく手軽な「健康サポート商品」を89商品（21～23年度計）開発し、利用と認知度アップを図りました。

- ・食事バランスがとりやすい「食べ方（レシピ）」を160レシピ（21～23年度）開発し、SNSへ331メニューを投稿や店頭レシピカードを通して発信。
- ・WEBサイトでフレイルなど情報通信を25件発信、また朝食レシピキャンペーンは組合員からバランスの良い朝食レシピを募集し、応募の中から15レシピを店頭レシピカードやリーフレットなどを制作し、組合員と学習やコミュニケーションを図りました。
- ・2030年に向けて、すべてのCO・OP商品をより健康な食とくらしに貢献するものにしていくために、公衆衛生学や行動経済学を取り入れた「食塩低減or減塩」や「野菜摂取or食物纖維増」の商品配置や訴求を行い、健康意識向上とバランスの良い食生活環境づくりに貢献します。

2. 多様で自発的な「食育」活動を通じた行動変容

- ・全国ほぼ全ての地域購買生協が食育に取り組み、子どもから大人まで、生産者との交流や産地・工場見学、食品の安全、地域の料理教室などを展開しました。子ども食堂・地域の多世代食堂には、全国41生協と5つの県生協連が支援を行いました。

3. お買い物を通じて途上国の栄養改善を支援する取り組み

- ①国連WFP協会と「CO・OP×レッドカップキャンペーン」を実施、対象商品購入1点につき1円の寄付が1,582万3,019円（21～23年度）集まり、ミャンマー連邦共和国の子どもたちの給食のために届けられました。
- ②地域生協のいくつかでは、コーポマークの牛乳の売り上げの一部を、途上国の子どもたちの栄養改善の目的で募金しています。2021年～2023年度合わせて7,097万9,712円が集まり、募金は日本ユニセフ協会、国連WFP協会を通じて現地に届けられました。また、日本ユニセフ協会の一般募金でも、途上国の子どもたちの栄養改善のための募金が届けられています

（東京栄養サミットアクションプランにおいて賛同した項目）

- 食料システムの変革 個人の栄養に関する行動変容の促進
 食関連産業のイノベーションの推進 途上国・新興国の栄養改善への支援

【企業・団体の概要】

日本生活協同組合連合会 <https://jccu.coop/>

生協は、消費者自らがよりよいくらしを実現するための協同組合で、全国約3,000万人が参加する日本最大の消費者組織です。